



今日は、
「あれ」やって…
「これ」やって…
次の予定は…! ?



「あれ」と「これ」、
予定をどのように組み立てているでしょうか! ?
詳しくは、紙面へGO!

目次

- ・法人理事から新年度のご挨拶 <2ページ>
- ・「T・D・S・N (Tanpopo Daily Support News) 65」 <3~5ページ>
~知ること・伝えることの大切さ~
- ・後援会のご案内・2023年度決算報告・編集後記 (編集部) <6ページ>

春はどこから～～～

理事 浅羽 昭子

今年も息子（自閉症と知的障害を併せ持っています）のグループホームへ迎えに行った帰り道、少し遠回りをして、桜並木のトンネルを通りました。いつまでこんな春が訪れてくれるのかなと、毎年思いながら車を走らせています。後から気が付いたのですが、息子は毎日ヘルパーさんの車で通っている道でした。

皆さん、不安に過ごしたコロナの長いトンネルは抜けたのでしょうか。私はまだマスクを外すことが出来ませんが、障害のある方の中には、マスクを付けられない方もいたので、付けなくても良くなったのは大変嬉しいです。マスクを付けないでスーパーに行った時、周りから発せられる視線の冷たさには、身震いしました。勿論すぐに付け、以降、息子はいつも忘れずに付けていました。周りの目は、いつも息子を「なんだこいつは」というような奇妙なものを見るような視線とはちょっと違って感じられました。そしてマスク会食はやっぱりおいしくなかったです。

コロナにかかった人と、濃厚接触者も含めて、多くの方が隔離の対象となり、施設が急な休みになってしまい、スケジュールが全然違ってしまった利用者さんも多くいましたが、何となく感じているのか、混乱して大変な事になったという方は聞くことがなかったです。グループホームも全員がそのままグループホームに閉じ込められた状況でした。「利用者さんも職員も頑張りましたね、お疲れ様です。」と伝えたいです。親としては本当に有難かったです。家で過ごすことになったら家族にうつらないように、どれだけ神経を使わなければならなかったかと思えます。息子はたんぽぽの郷とは、別の法人のグループホームを利用していますが、たんぽぽの郷わたげに通所している2名の方と暮らしています。長い間一緒なので、落ち着いて過ごせたのかもしれない。

また、ワクチン注射も無事に終えることが出来、関係者の方々のご協力に感謝いたします。息子の場合、大きな会場で、親が付き添っての注射になりました。不安がありましたが、会場のスタッフの方の心遣いもあり、有り難かったです。

さて、最近、三浦市に開所して一年になる、生活介護事業所のふあずに行く機会がありました。公園と小学校に囲まれている静かな環境の中で、利用者さんたちは、それぞれの仕事に励んでいました。ふあずの利用者さんには触れ合う機会がなく、初めてお会いする方ばかりでしたが、少しだけ関心を持ってくださったかなと思われる方もいて、お仕事の邪魔をしてしまったのならごめんなさい。皆さんの仕事ぶりに、親の会の活動もいろいろな困難がありました。頑張ってくれたと、改めて思うことが出来ました。

まだやり残したことも多く、少しずつではありますが、前に進めています。例を挙げますと、親亡き後を考えて、法人が取り組まないといけない事の中では、親では難しくなってきた送迎とグループホームの拡充です。送迎については、後期高齢者前後の保護者は、免許返納を真剣に考えているのではないかと思います。勿論私もその一人です。ヘルパーさん探しもなかなか難しいようですが、息子はお願い出来ていて、有り難いです。

重度の方も利用できるグループホームは少なく、たんぽぽの郷としてもすぐには出来ませんが、大きな課題と認識しております。

成年後見制度も、利用する人しない人、どちらにせよ制度の勉強も必要だと思います。成年後見制度も、使い勝手の悪さの声が届いているようで、何度も改正されました。私個人では取り消しができないのが一番困ることです。息子を理解するのもなかなか大変です。理解できない後見人ってなんなのだと思います。

親亡き後のことは、親の元気なうちにと考えてきましたが、親の会の仲間が一人かけ、二人かけの状況になってしまいました。改めて事業計画を立てて、理事、評議員の方々のご協力をいただき、これからも障害のある方と保護者の皆さんに寄り添えるたんぽぽの郷として、活動を続けて参りたいと思います。

～知ること・伝えることの大切さ～

皆さんは自分自身の予定をどのように確認していますか？家庭、職場、趣味や交友関係など様々な社会や集団と繋がっている中で生活を送るのに、予定が曖昧であったり、その日その週の見通しが立たないと困ってしまったり、不安を感じた場面を一度や二度経験をしたことはないでしょうか？利用者さんも同様、日々の予定を把握することで安心して活動を行う事が出来ます。今回は Y さんが自分自身で予定表を使用して予定を組み立てる取り組みについてご報告させていただきます。

【取り組みを行う事になった経緯】

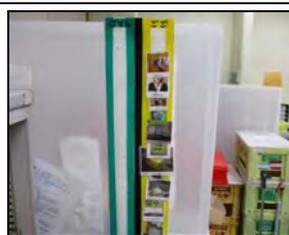
Yさんは主にネジ作業・タコルアー作業・ケーブル作業の受注作業を中心に取り組んでいる他、室内の窓拭きやお茶の入ったやかんを運ぶ役割活動を日々行っています。また、細かな変化によく気が付く方で、自身に関わる事はもちろん、他の方が使用している物が変わった事にも気が付くほど、変化に敏感な方です。

Yさんのわたげでの日常は大きく変化する事はあまりなく、一週間の大体の流れも決まっています。毎日の活動内容は活動内容を示す写真カードを上から順に並べたスケジュール(図②)を提示しています。しかし、Yさんはその様な状況でもスケジュールに貼ってあるカードを職員の所に持ってきて、何度も予定を確認する様子が見られていました。そこで改めてYさんが何を知りたいのか整理し、よりYさんに合った形で予定を確認出来るようになることで、安心して過ごせるのではと思い、取り組むことになりました。



図① 月間予定表

通所日は「作業カード」・休みの日は「家カード」がそれぞれ貼ってあり、その日が終わるとOカードに付け替えています。



図② スケジュール表

その日に行う作業や活動を上から順番に行い、作業や活動が終わるごとに1枚ずつ剥がします。



図③ 給食のメニュー表

メニュー表は毎週末に翌週分をお渡ししています。メニュー表には日付とメニュー、休日には「やすみ」と書いてあります。

【取り組みを始める前に】

Yさんへ予定をお伝えする方法としては月間予定表(図①)・一日活動内容を記したスケジュール表(図②)・給食のメニュー表(図③)の3つがありました。この3つから休みの日や活動内容など、必要な情報をYさんなりに整理して理解しようとする様子が伺えました。

またYさんの様子を見てみると特に下記の4つの活動に関して確認が多く見られていました。そこで4つの活動について活動について分析をしました。

- ・『やかん運び』…翌日に飲む分として作ってあるお茶を冷蔵庫のある部屋まで運ぶ活動で、休みの前日にお茶は作らない。
- ・『帰りの送迎車』…平日と週末で乗車する車が変わる。
- ・『週末持ち帰るもの』…毎週末に上履と作業ズボンを持ち帰る。
- ・『休みの日』…土日の理解は概ねあるようだが、飛び石連休時には休みの確認が見られる。

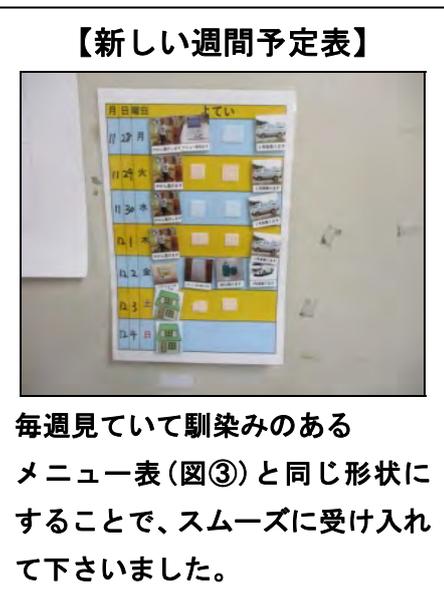
次にYさんにとって使いやすい予定表の形を考えるにあたり、下記の内容を1つずつ確認しました。

1. 曜日や日付について

曜日や日付の理解を確認する為に、カレンダーを使用して職員がランダムに日付や曜日を口頭で伝え、伝えた日付や曜日に指を差してもらいました。日付に関しては正しく指すことが出来る時もあるが、違う日付を指す事もあり、曖昧な様子が伺えました。一方で曜日に関しては口頭でお伝えした曜日を指すことが出来ました。このことから、曜日を正確に把握していることが分かりました。

2. 予定表はどのような形状にすると分かりやすいのか？

①の日付と曜日の確認を行った際、いくつかの曜日を同じ週の中で指差す様子があったことから、週単位で予定を把握していると評価し、週間予定表の形で伝える事にしました。また、書式についてはわたげで毎週お渡ししている給食のメニュー表(図③)と同じ形にすることにしました。



3. どのくらい先の予定まで知りたいのか？

週間予定表という形にした場合、一週間終わった後どうなるのかということが不安になるのではと考え、当初は週間予定表を2つ用意し、二週間分の予定を伝えられるように準備をしました。ですが、取り組みを始めるにあたり、職員全体で話し合う中で、まずは一週間の予定を把握してほしいという思いから、始めは一週間分の予定だけを伝える事にし、Yさんが先の予定を知りたいという訴えが強く見られたら二週間分の予定を提示することにしました。

以上の事を踏まえ、どの様にYさんが予定を組み立てられるかを考えた結果、取り組みを2工程に分けて行う事にしました。

【第1工程：カレンダーと役割活動カードの理解】

週間予定表はYさんが気にしている予定『やかん運び』『帰りの送迎車』『週末持ち帰るもの』を写真カードで提示し、曜日と役割活動のマッチングを図る取り組みを行いました。初めはYさんではなく職員が予定表に写真カードを貼った完成形を用意し、曜日と各役割活動カードの関係性を理解してもらいます。

取り組み開始の朝、事前に書面で予定表が新しい物に変更となった事を伝えました。わたげに到着後、新しいカレンダーを隅々まで見渡して確認をしていました。各活動が終わる毎にカードを剥し、箱にしまい、一日の終わりに月間予定表で使用していた終わりを示す〇シールを貼る流れを一日掛けてお伝えしました。時折、カードを剥して職員に見せて確認をする場面が見られましたが、「大丈夫です」と職員が声を掛けると、納得したのか、カードを元の位置に戻していました。取り組みを開始して一週間も掛からず、週間予定表の使用法や一週間の流れを理解することが出来ている様子が伺え、週間予定表で提示している予定より先の予定を職員に確認する事はありませんでした。また、写真カードを使用して予定の詳細を把握することで、取り組み開始前に比べて予定の確認回数は減りました。このことから、Yさんが予定を把握する時は一日単位ではなく、一週間単位で流れを伝える方が分かりやすいということが分かりました。特に飛び石連休や健康診断などイレギュラーな予定の時ほど週間予定表で予定を整理することで納得していただきました。

【第2行程：自分で予定を組み立てる】

曜日と役割カードの関係性や使用方法がわかってきたので、次の工程として今まで職員が組み立てていた予定を、本人に組み立ててもらいます。予定の組み立てを始めるにあたり、1段階目として、『休み』・『送迎車』のカードは職員が予め貼った状態から残りの『やかん運び』・『週末持ち帰るもの』カードを貼ってもらう事にしました。その後、Yさんが様子を見ながら本人に貼ってもらうカードの種類を増やしていき、最終的には『休み』カードのみ貼った状態から予定を組み立ててもらう事にしました。予定の組み立てを行う日は、金曜日の午前中に翌週の予定を組み立ててもらう事にしました。

第1工程の取り組み開始時と同様に事前に書面でYさんに予定を組み立ててもらう旨を伝える事で、予定組み立ての時間まで落ち着いて過ごす事が出来ました。組み立ての時間になり、職員が『日付』・『休み』・『送迎車』のカードを貼ってある週間予定表を渡すと、一週間の流れを理解している様子で、迷う事は一切なく正しく貼ることが出来、金曜日の帰宅前には今週分の週間予定表を引き出しにしまい、翌週分を所定の位置に掲示してから帰っています。その後、約2か月掛けて徐々に職員が事前に貼るカードの枚数を減らして行きました。Yさんが貼るカードが増えても殆ど間違える事なく予定を組み立てる事ができました。

最後の課題として『お茶運び』と『休み』の関係性の理解です。金曜日に『お茶運び』が無いことは理解できていますが、火曜日・水曜日・木曜日が祝日にあたった際はお茶の準備がないので『お茶運び』の活動はないのですが、『お茶運び』カードを貼ってしまいます。現在、休みの前日は『お茶運び』を行わないことをYさんに分かりやすい伝達方法を模索中です。



【取り組みを通して】

Yさんは今でも職員に確認することがあります。今までは「本当にこれで合っていますか？/いいんですか？」と言葉はないものの眉間にしわを寄せて頭上には「？」をたくさん浮かべつつも、やや不安げな様子を私自身感じる事がありました。ですが、自分自身で予定を立てる事で、Yさんが知りたい情報を自分自身で理解できる様になる事で、「今日はこれでしょ！/変更はないですよね！」と疑問を解決したいという思いより、分かって

いるけど念押しで確認をする様子に変化していったのを見て、取り組んでよかったと感じています。

ご本人が日々繰り返す行動を「いつものことだから」と思い込んで受け答えしがちでしたが、今回の取り組みを通して一つずつ丁寧に見直すことで、その行動の意図に気づく事ができ、その結果利用者さんが求めている支援に繋がられるという事を再認識することができました。また今回の取り組みを行うにあたり、常に疑問を持ち続ける事を意識しました。自分で取り組み内容と手順を考えた後に「本当にこれでいいのか？」考えては悩みを繰り返す事で取り組み内容の本質が整理され、最終的にはYさんの気になる部分の解決をお手伝い出来たのかなと思います。今回の取り組みで得たことを糧に、支援者として成長出来ればと思います。

石井一步



曜日と休みのカードを頼りに、自ら活動カードを貼ることが出来ています。

たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員	1口	3,000円
	団体会員	1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474
郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会

《2022年度 決算報告》

たんぽぽの郷 後援会

昨年度、皆様からいただきました会費については、下記のとおり収支でしたので、ご報告申し上げます。

(自 2022 年 4 月 1 日～至 2023 年 3 月 31 日)

〈収入の部〉

〈支出の部〉

項目	決算額	項目	決算額
前期繰越金	453	寄付金(わたげへ)	320,000
会費	333,000	振込手数料	4,311
		次期繰越金	9,142
合計	333,453	合計	333,453

以上 会計 常田ちよ子



2022 年度収支決算書及び関係帳簿・領収書を監査したところ、報告に相違ないこと証します。

会計監査 對比地祐子



高橋正子



皆様よりの会費等の決算につきましては上記の如くご報告申し上げます。



編集後記

いあずは移転から一年が過ぎ、新しい利用者の方々も迎え、また新たなスタートを切りました。いあずの敷地入口の花壇には、利用者のご家族が植えて下さったハーブや花が咲き乱れ、彩りを添えてくれています。花壇の水やりをしていると、ご近所の方が「きれいなお花」と声を掛けて下さったり、草取りをしていると、使いやすい道具を教えて下さる方もいました。多くの方に見守られていることに感謝し、今年度も精進してまいります!



編集部 庄司

社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21

TEL:046-844-0038/FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp